

平成 30 年度第 1 回東温市総合教育会議会議録

開会の日時及び場所 平成 30 年 5 月 29 日 (火) 午前 10 時 00 分
東温市庁舎 4 階 405 会議室

議事に出席した委員	東温市長	加藤 章
	教育長	池川 仁志
	教育委員	菅原 正夫
	教育委員	遠富 英子
	教育委員	本田 隆彦
	教育委員	水岡 明美

議事に出席した職員	総務部長	加藤 厚志
	総務課長	佃 一彦
	保育幼稚園課長	山本 健吾
	生涯学習課長	近藤 照雄
	給食センター所長	菅野 美香
	事務局長	渡部 祐二
	学校教育課長	池田 隆太
	学校教育課長補佐	松本 則一
	学校教育指導主事	橋本 英樹
	学校教育課主査	長曾我部 憲一郎

傍聴人 5 名

1 開会宣言 (午前 10 時 00 分)

渡部局長 (開会を宣す。)

2 市長あいさつ

加藤市長 本日の議長を務めさせていただきます。尚、本日は 5 名の方が傍聴を希望されておりますが、傍聴の許可に対して、皆様方、許可してよろしいでしょうか。

(承認)

それではご承認いただきましたので、傍聴者の入室を許可します。資料の配付等お願いします。

(傍聴者入室)

それでは開会にあたりまして一言ご挨拶をいたします。本日は大変ご多忙の中、第1回東温市総合教育会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。また日頃から皆様方におかれましては、本市の教育行政、また一般行政につきまして格別のご支援ご協力を頂いておりますことを厚くお礼申し上げる次第です。さて、今日子どもたちを取り巻く教育環境ですが大きく変化してきており、少子高齢化の振興、また国際化、核家族化の進展やライフスタイルの多様化、地域コミュニティにおける人間関係の軽薄化など、様々な問題がありまして、ここで改めて未来を担う子どもたちを育む行政の果たす役割と使命について認識しているところでもございます。また、国におきましても先生方の働き方改革が大変重要な課題となっております、社会全体で労働時間を根底から見直す動きがある中、業務の在り方や学校への負担を改善しまして、教職員が子どもたちと向き合う時間を確保することで、1人1人の子どもたちに対してきめ細かな対応ができるようにすることが大切であると考えている次第です。

ところで、私が就任1年半となりましたが、今年度におきましても引き続き「温か笑顔の東温市」ということで街づくりを進めていく所存ですが、この中で教育文化に関する施策方針の一つであります学校教育の充実の記述の中に、保育所、幼稚園、小中学校及び関係機関が密接な連携を図りながらきめ細かな支援を行い、教職員の更なる資質向上に努めると共に確かな学力が身につく豊かな心が育まれる教育を推進することとされております。今年度の直近の数字ですが、保育所におきましては2名増の510名、幼稚園におきましては16名増の294名、小学校におきましては24名増の1790名、中学校では卒業と入学の差がありますが、マイナス22名ということで、909名の生徒が在籍しております。本年におきましては今申しましたように増となっておりますので、これも大変うれしい数字かと思っておりますのでご挨拶の中で触れさせていただきます。

改めまして本日の議題ですが、教育行政の現状と課題について皆様方のご意見をいただきたいと思います。本日も忌憚のないご意見をいただきながら第1回の総合教育会議を進めたいと思います。どうかよろしくお願いを申し上げまして私の挨拶とさせていただきます。

それでは早速協議に入りたいと思います。協議第1号としまして、東温市の教育行政の現状と課題について協議を進めます。事務局から説明

をお願いします。

3 議題

(1) 東温市の教育行政の現状と課題について

池田課長 (教育行政の現状と課題について資料に基づき説明)

山本課長 (乳幼児期の教育、保育の充実について資料に基づき説明)

近藤課長 (地域文化の継承発展と文化財の保存活用について資料に基づき説明)

菅野所長 (特色ある給食の提供および家庭との連携について資料に基づき説明)

加藤市長 ご意見ご質問等頂きたいと思います。まず教職員の働き方改革からお願いします。

菅原委員 超過勤務の実態がその一部の先生に集中したり、あるいは全体的に超過勤務されておられる方が多いですから、若い先生方、育児休暇の空けた先生、まだ小さいお子さんを持つ先生、そういう先生方に無理がいつてはないでしょうか。そして次の議題にあるように子育てというのは非常に大事。学校の先生も当然子育てやっておるだろうし、その上、小学校の先生は7割くらい女性の先生になっておられるわけですからそれらの実態をまず確認させていただきたいと思うんですが。

池田課長 例えば産休明けの先生といったあたりの細かいデータは抑えておりません。また、小学校でも大規模校と小規模校で時間差があるのかと言いますと、小規模校だから超過勤務、勤務時間が多いかと言うと、一概には言えないデータになっております。そして、小学校と中学校を比較した場合にも比較的小学校の方が勤務時間が長いという数値は昨年2回確認したところでは確認できております。

菅原委員 数値に見えない勤務形態があってはいけない。それによって先生方がストレスを感じるような状況にあってもいけないし、そしてある先生だけが毎日遅くまでする、ある先生だけが毎朝早くに来る、というような偏った実態がもしあるとすれば、これは全体的な話では解決できないので、各学校の各先生方がそういう議論をして円滑な運営をしていただきたいと思います。

小規模校も大規模校も大体同じになるという話だったんですが、小規模校、特に複式授業をしておるところは、生徒は少ないんですが先生は2学年の授業を教えるわけですが、準備にストレスが溜まるのではないかと。そこらについてはここにも書いておるように学習支援ソフトやその前にICTの環境を確保する。そこらを少しずつでよいですので改善しつつ、若い先生方のストレスをかけさせない職場環境を作ってほしい。

池田課長 今年度両中学校につきましては、先ほど申しましたスクールサポート

スタッフを各1名配置しておるところですが、ICTの活用では今年度タブレットを取り入れまして授業の支援も対応する予定ですので、それらの取組を順次進めていきたいと考えています。

菅原委員 よろしくお願いいたします。なお、各学校には新しい制度については十分検討してやっていくように、指導をしていただきたいと思います。

遠富委員 教職員の働き方改革が、単純に勤務時間が短くてよかった。ではなく、教員が子どもや生徒と向き合って心触れ合う時間を増やす、あるいは良い授業のための教材研究の時間を増やす、そのための働き方改革が大事だと思っています。取組の内容のところで、事務的措置、環境整備、1歩1歩進んで良いことだと思っています。意識改革のところで、1つは、出勤、退勤の把握、早く帰れと言われるのは必ずしもいい方法ではない。言わなくてはいいませんが、結局しないといけない仕事はあるわけですから、持って帰って家庭ですることになりますので、そういうことはあまり重視しない方がいいと思います。ノー残業デー、これも今日は帰れ。と言われてもやることはあるので、先ほど同様これも持って帰ることになります。するのは悪くはないけれども、あまり強引にはどうかと思います。具体的な方策として部活動の休養日の設定、実際にこういう具体的なことをしていかないといけないと思います。会議や研修の精選、これもとても具体的にしやすいこと。夏季休業中の学校閉庁日、これもなかなか学校だけではいかないことで、教育委員会が引っぱっていかないとできないことですので、このような具体的な方策を1つ1つ積み上げること、プラスして優先順位を付けて精選していくことはすごく大事なことだと思っています。子どもと向き合うこと、良い授業のための時間を取れること、これが働き方改革をしていくことにとって大事なことだと思っています。

本田委員 意識改革の部分で、出退時間やノー残業デーなんですが、これも多忙な原因を解消しないでこういったことを進めて行くと、かえって隠れた部分でまた先生方の負担が増えていくだけだと思います。まずは人的支援的な事務でそういった部分を優先させて進めていただけたらありがたいと思います。

1番大変なのは中学校の部活動、小学校の陸上水泳の放課後の練習、そういう部分だと思うんですが、技能を持ったそれに優れた先生方に集中していないかという心配をしています。ある程度練習メニュー等が確立していれば専門的な技術が高くなくても練習の監督もできるのではないかと、という気がします。できるだけ全教職員で関わるようにできれば

いいと思いますし、土曜日曜の練習にはボランティアの参加も積極的に進めていくのも必要かと思います。ただ、そこにある会議や研修の精選については、共通理解や教職員の資質能力の向上には欠かせないことだと思います。これもあまり詰めると本来の大切な部分が削られていくと思います。学校によっては保護者対応で時間を取られて苦労されている方もおるんじゃないかと思います。これは肉体的な疲労より精神的なストレスで、かえってそちらの方が大変じゃないかと思います。保護者からの相談や要望、そういうことに対して、小学校は特に学級担任が負うことが多いんですが、そういった部分も学校体制で対応できるというような体制を取っていくことも必要かと思います。

水岡委員

今日上浮穴郡と東温市の郡総体で、今日に向けて1カ月2か月前からすごく頑張っただけで今日を迎えたと思うんですが、この日に向けて土日に色々試合等がありまして、先生方が土曜日も日曜日も練習試合に引率して行っていると思うんですが、その部活動の先生の負担が大きくなっていないか。毎週毎週同じ先生が土曜日も日曜日も負担になっていないか。体を休める時が先生はないんじゃないかとちょっと不安になっております。先生も色々いると思いますので体を休める日もやはり丸1日作ってあげたらと感じております。

池川教育長

教員の長時間勤務をご心配していただきまして本当にありがとうございます。教育委員会としましても教員をサポートする人的、また物的の支援はまだ不十分なところはありますが、できる限りのところを取り組んでいるところです。今年度は校務支援システムを東温市の方で導入していただきましたので、校長が、全ての職員がいつ来ていつ帰っておるのかという情報を毎日把握することができます。そして目標管理シートを設定して、校長は全ての教員に面談をするということをしておりますので、そのような勤務実態を校長は把握をし、どのようなことで長時間勤務がそこに存在しているのかという理由を明確にし、具体的に解決するところを解決していく。その中に、1人の教員が大きな仕事を抱えて困っているというのであれば、その状況を解決するために組織としてどのように取り組んでいったらいいのか、これを校長としてまずやっていく。そしてそれを教育委員会と共有化していく。というようにしております。

部活動の休養日ですが、国の部活動のガイドラインが出まして、現在川内中学校、重信中学校共に部活動の規則に基づいて、土日は1日どちらかは休みにしよう。土日休みが取れない場合は平日を休みにしよう。

ということでやっておりますけれども、総体前ということで少しでも練習を、ということで、教員にちょっと負担があるかと思いますが、再度部活動ガイドラインも踏まえて、どのような部活動の在り方が子どもたちにとってプラスになるのか、そして教員の負担軽減につながっていくのかというのは、両校長の意見等も踏まえながら進めていきたいと思っております。ガイドラインが出た以上はそれを原則とした対応を進めていく必要があると思っております。

加藤市長 ありがとうございます。今、校長会あたりの考え方も触れていたと思いますが、各学校で背景、人数、そのあたりもまた校長会の方でも十分問題認識いただいてこの点に関してまた検討を進めていただけたらと思います。

菅原委員 クラブ活動の顧問というか部長というか、先生は実際何人充てておるんですか。

池川教育長 部活動は2人体制で行っております。やはり子育てもある程度終わって、その種目に精通している先生が主たる部活動顧問になる。副となる先生はその種目について経験のない方がつくというような感じで、実質主たる顧問が前面に出て指導をするんですが、出張等で部活動につけない時には練習マニュアルは部活動のキャプテンに渡しておりますので、副の先生はそれを見ながらケガのないように子どもたちが自主的にやっていくのを見守るといってなっております。

遠富委員 部活動の対外試合のことなんですが、市外で練習試合をする時に生徒たちの移動手段が交通機関では間に合わないので保護者さんが分担して車で連れていくことが多い。担当の教員は無理ですから。そうなるとお仕事などの関係でできない保護者さんの子どもは入りたい部活に入れなない実態がある、と聞いて驚いたのですが、協力できる家庭が協力するのは大いに結構なんですが、できない家庭に集団圧力がかかるような雰囲気があるのではないかとこのことをちょっと心配しました。学校の部活は教育活動なので、この競技に入って頑張りたいという生徒の気持ちがかなえられるような部活の体制になるように、配慮を強く望みます。

加藤市長 今のご意見の情報は事務局入っていますか。

池田課長 先般の定例教育委員会で確認しておるんですが、直接学校現場での確認は私の方ではできておりません。

加藤市長 ノー残業デーの記述もありますので、役所のノー残業デーの概要というか、今こんなになっていますよ、というのがもし発表できるようであれば簡単にお願ひしたいと思ひます。

- 佃課長 東温市役所の方では、毎週水曜日にノー残業デーを設けております。実態としては、必ず帰れ、ということではなく、基本は原則帰ってくださいね。ということですが、業務によってどうしても帰れない時は残っておるとい実態があります。それと、今検討しておりますが、夕活ということで、時差出勤も検討しております。
- 加藤市長 役所のノー残業デーと現場のノー残業デーは、背景や立場からも違うとは思いますが、それぞれが今そういう形で全国的な働き方の検討をしておるといことだけはお伝えしておきます。それでは次、乳幼児期の教育保育充実のための取組についての部分、ご意見お願いします。
- 遠富委員 保育幼稚園課になって、施設の改修が急に進んで大変うれしかった。というご意見を先日いただきまして、良かったなあと思っているところです。現状と課題のところで、職員の確保に苦慮している、という文言があり、これは教育保育に直接影響を及ぼす大事なことなんですが、具体的に今年はプラスアルファの方策ができていいのかどうかということをお聞きしたいのですが、どうでしょうか。
- 山本課長 保育所については職員は今現在定数4減している段階です。この定数4について現在、来年の4月採用に向けて職員採用試験の募集をしているところです。また、臨時職員、嘱託の保育士についても足りていない状況です。今現在中予圏域の他の公立の保育所の給与実態、嘱託職員の給与実態、パート職員の時給、手当関係について調査をさせていただき、松山に比べると若干こちらの方が低いというのを把握しました。パートについて交通費の支給が他の市町ではございますが、東温市ではございません。その辺のところも把握はしているのですが、今後そういった部分につきましては他の市のパート職員がおられますから、保育士のことだけで考えるのはなかなか難しいのかなというところで、今どうすればいいのかを内部で協議しているところです。
- 加藤市長 引き続き今の給与実態の調査等々も含めてこれからも担当課の方でも行っていくと思います。
- 菅原委員 今年3月に、幼稚園、保育所、トータルして定年退職の方が3人おいでて、そして一般の保育士、幼稚園の先生が4名退職したと。気になるのは、若い方4名が辞められたので、確かに給与のこともあるでしょう。しかしそう簡単に給与を上げるというのも難しいだろうというのは推測できるのですが、それ以外の若い方ですから、それ以外の方の福利厚生ですとか処遇ですね。ここに処遇面の検討、新規職員に対するフォロー体制、あるいは積極的な働きかけ、例えばパンフレットに、東温市

の保育園幼稚園ではこういうことですよ。というのを打ち出さないよね。なかなか集まってくれないと思う。

保育園、保育所、幼稚園を見て、1番これだと思うのが、休憩室が本当になくところもある。あってもそこは色んなものを置いてゆっくり先生方が休めない。みんなが座るほどの学校のような職員室はいらないでしょうが、みんなが集まって会議する時に、幼稚園や保育所の小さい椅子で先生方が集まって相談事を協議したり色々子どもたちが遊ぶものを作るんです。そういう処遇面というか、職場環境を是非確立してほしいと思うんです。これから少子化と言えど、東温市の保育所幼稚園、そう一気に減ることはないと思うし、3分の1から4分の1くらいは民間の施設へ東温市の子どもさんが通っておるんですが、やはり公立の幼稚園が1番安心していけるニーズが高いと思うので、そういう給与等の処遇面、プラス働きやすい、そういう環境面にも是非力を入れてあげたら来てくれると思います。

本田委員 この間の市長さんのお話で、子どもにとったら幼稚園保育所の先生というのはあこがれの職業だという風なことだったんですが、実際この仕事の環境は大変厳しい状態で、そこへ行くと本当に躊躇してしまうような状態というのがあるのかなと思います。やはり働きたいと思うやりがいや魅力のある職場、そういった環境面、あるいは待遇面での改善。難しい部分もあるとは思いますが、少しずつ改善をしていく必要があると思いました。途中退職されたような方がたくさんおいでるのであればその人たちがまた働ける条件ができた時にずっと職場に復帰できるような体制もあればだいぶ違ってくると思いますが、実態はどうなんでしょうか。

加藤市長 臨時雇用の関係ではどんなですか。1回正規職員で退職してその方が、例えば子育てが楽になったから再び来られる場合は、パート、嘱託、22条でないとか対応できないとか、制度はどんなになっていますか。

山本課長 制度と言いますか、実情として把握しているのは、正規の職員、保育士として来ていた職員が結婚、出産等で1回退職をして正規でなくなっている。子育て等が一段落して実際にパートの職員、保育士であるとか嘱託の保育士であるとかに来ていただいているという実態はございます。

加藤市長 経験があってそのパワーを活かしていくのも大事なかなと思います。

水岡委員 今年度双葉保育所で工事があるということで、乳幼児さんがケガのないように工事を進めていただきたいと思います。また、幼稚園の一時預かり事業がだんだん拡充していっているからお母さん方はすごく助かっ

ているありがたい事業だと思います。

山本課長 先ほどの職員の環境面についてですが、新規職員に対するフォロー体制ということで、今年度、退職をされている先生が各保育所、幼稚園も訪れまして、その新規の先生、異動した先生、悩みを持っている先生のお話等を聞くような機会を設け、現在何人かの先生に回っていただいております。そういうことも今後もっと充実させながら、若い先生が引き続き働ける環境づくりをしていきたいと思っております。

池川教育長 先ほど、双葉保育所の工事の関係で、現実には先ほど申し上げた数字の中から、双葉保育所はトータルでマイナス17人。これが工事の影響であるということは先般保育所長園長会の時に聞かせていただきました。それらの流れの中で工事自体は粛々と進めていかないとはいけません。処遇、人事の関係は担当課の方で言いましたように、すぐその解決する部分は難しいと思うんですが、引き続き対応に努めていきたいと思っております。

本田委員 東温市は本当に子育て支援というのが充実していて、実際に待機児童、全体としては0を達成していただいている大変ありがたいなと思います。ただ、希望の園、希望の地域の保育所へ入れないという方はおいでということを知っております。幼稚園の一時預かりを実施していただいて、その部分だいぶ改善していただいて、西谷の保育所に行った子が幼稚園に帰ったようなお話を聞いております。そういった方向で進めていただいておりますが、他にも認定こども園への移行を進めていただければ希望される地域へ入園できる、そういった条件作りも徐々に努めていただけたらありがたいと思います。

山本課長 認定こども園の方なんですが、今年度保育所長、園長、現場の意見も聞きながらどのようにするかの方針について検討して行きたいと思っております。

菅原委員 認定保育園というのが大事なことだと思うし、特に川内地区は川内保育園しかないのです。そうかと言って定数増やすかといってもキャパシティの問題もあるだろうし。そこら非常に難しい問題があるだろうと思うんですが、やはり将来のことも考えて、単にキャパシティどうのこうのではなく、受けて考えて行かないと。待機児童は確かに0ですが、お母さん方あるいはお父さんもですけども、他の第2希望、第3希望、やはり父兄にしたら不便なところですよ。そこら解決するためには認定保育園というのは大事だと思うので、長期的な視点に立って是非検討してほしいと思います。キャパシティが少ないから難しいでは本当の解

決にはならないと思います。よろしく願いいたします。

加藤市長 そのあたりも踏まえて進めていきたいと思います。それでは次に移らせていただきます。収蔵資料の活用についての件ですがご意見ご提言ございましたらお願いします。

遠富委員 貸し出しというところはとても素晴らしいと思いました。高齢の方々に、回想法によって、自分の今まで歩んできた人生やしてきた仕事に対して思い出していい刺激をもらったりいい仕事をしてきたんだなあ、そういうことを思っただけ、そういう活用する方法があるんだなあ、と、本当に素晴らしいと思いました。

池川教育長 歴史民俗資料館の運営協議会が毎年開かれておるんですが、その時に、資料館を利用される方は限られた方で、少しでも所蔵している東温市の素晴らしい文化財に触れていただきたい、どういう方法があるのか。ということで、小中学校の歴史的な学習で役立つものについては有効利用していただく。それと、今回提案しておりますグループホームや特別養護老人ホーム等への貸し出し、昔を思い出すような写真もたくさんあるということで、今年の予算でそういうような文化財を電子媒体にしてホームページ等で発信するというようになっておりますので、少しでも市民の方に東温市が持つておる文化財に触れていただいたら、有効利用についての意見もいただけるのではないかなと思っております。今の医学の進歩等踏まえながら、どのような活用をすることができるのかということもアンテナを高く張りながらやっていかなければいけないと思っております。

本田委員 市外からも人を呼べるような資料館ができないかなと思います。訪れて、人が東温市内を巡ってみたいくなるような市内の史跡や文化財、自然等関連させた展示をしておいて、そこでまた文化財マップのようなものを自由に取っていただける。飲食店等の紹介をした地図を置き、レンタルサイクルの設置など、来た人が1日市内を巡って観光できる、そういったスポットに整備できたら多少なりとも市の経済効果も上がるのかなと思います。

加藤市長 市内にも巡る形の観光やレンタサイクル含めてですが、全体の中の動きになると観光行政や他の課にも移っては参りますが、市外から人を呼べる資料の展示面から行くと、担当課、どうですか。

近藤課長 実際に民具等々については、やはり施設への貸出等が限界かと思いますが、自然景観あるいは東温市の場合は旧金毘羅街道があったり、それに関連して俳句の句碑や歌碑、そういったものが非常に多くあるようで

す。そういったものについても、以前産業創出課の方で資源調査といったデータの整理をしております、それも今回デジタルアーカイブの方へ投稿していく予定です。ですので、やはり現地に見に行くという形での文化的な史跡は非常に多くございますので、その活用については、観光部局とも連携しながら是非前向きに進めたいと考えております。

菅原委員
近藤課長

この専門の学芸員さんというのは何人くらいいるんですか。

現在学芸員は担当係長の樋口、嘱託職員で萬という職員がおります。実際担当ではなくても東温市の職員として在籍しておる職員は、学芸員としては今のところ他に2名おります。同じ職員同士ですので随時色々な相談はさせてもらっておるところです。

菅原委員

これだけの資料を管理するというのは大変だと思いますが地道な仕事ですからこれはぜひ。昔の先祖が作った資料ですから、いいものは守っていただきたいと思うんですが。以前西谷小学校だと思うんですが、あそこにも昔あの地域で使った農機具とか資料を何点かかなりあったと思うんですが、あれらは学校独自で、この生涯学習が管理しておるのは別になっておると思うんですけれども。

近藤課長

基本的にはそういった民具農具は所有者の方からの寄贈ですので、その寄贈先がこちらへはなくて、学校への寄贈という例もあると思います。

菅原委員

そういうデジタルアーカイブとかそういうシステムがあるわけですから、それを一緒に管理してパソコンで含めてそれを見れるようにしてあげたら、学校と展示との密着性ができてより子どもたちが興味をわくんだらと思うんです。他の学校にそれがどうか承知していないんですが、もしあるのであればそういう関連性を付けてそれぞれのセクションの方での興味を引く、とにかく関心を一人でも持っていただく、興味のある方に関心をいつも持ってもらう体制をいつも敷いておればいつか今言われたこともできてくるんじゃないかなあとと思います。

遠富委員

利用と理解についてですけど、小学校在学の子どもさんが6年間の間に、1度はこういう施設を保護者さんは行く機会を得ると。子どもたちは市内全部から来ているわけだから、そうすると保護者さん全部を網羅できるので、是非そうやって知っていただくのも良いかなあと。家庭教育学級などでお料理や手芸を良くやられますがこういうのを大いに利用されるのもいいんじゃないかなあと。委員会が紹介をしてもって行かれるのもいいと思います。

菅原委員
加藤市長

色々な形で目に触れる機会を提供するのも大事だと思いますね。

そういう意味では現物を見るのが一番だと思いますが、行けない人の

ために今回提案がありましたデジタルアーカイブ東温についてはまた新たなアイテムの一つになるんじゃないかという風には思います。

水岡委員 私もこの東温市にこういう文化財が沢山あるというのは素晴らしいことだと思います。しかしこれを管理する方の苦勞を感じました。子どもたちは昔の器具は分からないと思うんですが、手に取ることはできなくても実際の大きさや実物を見るということはすごくいい勉強になると思いますので、地元の小学生が東温市のことをこういう資料館を作っていただいてもっと知ってほしいと思いました。

遠富委員 デジタルアーカイブについてですが、市内には閉校になった学校がいくつかありますよね。松瀬川や滑川。その卒業生の色んな写真やそういった資料が、誰にも今目に触れていない貴重な学校の思いでのものとか、そういったものもデジタルアーカイブに残して、見ることができるように。そうすれば県外の方も見るすることができますよね。ちょっと手間のいることなんですが、そんなのもいかがでしょうか。

近藤課長 現在収集しておる資料をまず優先的にしますが、ご意見ありました、各学校等が所蔵しておる資料、あるいは写真、こういったものについても、データベースですから、いくらでもこちらが工夫すれば収蔵できますので、今回のご意見是非参考にさせていただいて仕上げたいと考えております。

加藤市長 よろしいでしょうか。それでは次に行かせていただきます。特色ある給食の提供及び家庭との連携についてご意見よろしくお願いいたします。

菅原委員 非常に積極的にこういうコンテストや新たな献立、食事について非常に興味の引くように仕向けていただいております。非常にありがたく思います。お尋ねしたいのは、平成30年度学校給食年間指導計画献立作成計画、これは、非常にいいと思って見させてもらったんですが、この指導で、これについて年間計画を直接お母さん方、子どもたちにするとき、当然これは学校にもかなり入ってもらってやらないといけないわけですが、その辺の学校との連携をどういう風に仕組んできたか、今後どういう風に進めていくのか、そこらお教えいただいたらと思います。

菅野所長 この計画書というのは3月及び4月の献立委員会というのが各小中学校、幼稚園、要するに給食を配食している学校から、給食主任さんと言われる方を集めましてこれを配布しております。この年間計画に基づいて給食を配食する、それから食育を指導するというような内容の協議を行っております。毎月、各家庭に配布する食育だよりというのはあるんですが、先生用に指導するための食育だよりというのを毎月配布してお

ります。今月の目標はこういうものですよ。それに対する指導はこういうのを重点的にしてください。というような内容です。

菅原委員 もちろんそれは栄養教諭さんも中に入れてくれて指導しておる。そういう体制ができておるといことですね。

菅野所長 はい。

遠富委員 食べるということは毎日コツコツと重ねて行くもので、おいしくて栄養があって、そして安全で。だけど当たり前が目立たない。これが一番大切なので、これが実際に東温市の給食センターは事故もなくずっとやってこれているということは、素晴らしいことだと思います。市外から来られた先生もおいしいという風にほとんどの先生も言っていて、そのコツコツが大事だと思っております。人の生涯の健康の基礎は食事とその食事の習慣から作られると思います。子どもの食習慣はやはり家庭。回数から言うと家庭が断然多いので、家庭、主に親の影響を大変受けるものだと思っております。学校で行っている食育を通して食習慣についての在り方の啓発を家庭、特に親御さんに行っていることもとても大事だと思います。学校を通すと全ての親御さんに一応は伝わるといこと、大変伝えやすい。保健の担当の方もされるんでしょうけれども学校を使うといことは大勢に伝わるといことなので、是非一般の保護者さん、例えばコンテストに参加されたり新作料理の名前を募集される興味の高い保護者さんだけでなく、一般の保護者さんの意識啓発も是非大事なことにしていただきたいと思っております。

本田委員 安心安全で新鮮な食材というのが一番の御馳走だと思いますが、東温市はそういった地場産物の使用率が県下でも高いといこと。また、生産農家と子どもとの交流等行って、十分特色を出していただいていると感じております。全国各地の郷土料理といの、大変アイデアのある取組なんです、あまり力を入れすぎると子どもにとって楽しさ、おいしさと言った面でちょっと失われる可能性もあるのかなと思っております。そのあたり十分配慮して進めていただいたらありがたいと思っております。

菅野所長 郷土料理をそのまま配食するのではなく、子どもたちが食べやすくアレンジしたものに替えて出すようにはしております。また、去年も家庭教育学級を給食センターで行っていただいております。今年も年度当初の献立委員会の中で家庭学級を給食センターを利用していただくといことを推進しております。

水岡委員 今回初めてスクールランチコンテストが開催されることはとても良いことだと思います。使用する食材が、もち麦、はだか麦、古代米とある

んですが、家ではなかなか出てこない食材なんですが、最優秀賞、優秀賞、努力賞が決まりましたら、レシピが分かれば公開をしていただけたらお母さん方真似して家でも作ってみようということがあると思いますので、ありがたいと思います。

菅野所長
加藤市長

そういう風にさせていただく予定になっております。

他にございませんか。それでは本日の4件の協議については以上で終了させていただきます。次にその他の項目を設けておりますが、その他としてまず事務局何かございませんか。では、各委員さん、その他の件で何か。それではないようですので、このあたりで第1回の会議を閉めさせていただきます。委員の皆様には本当に貴重なご意見をいただきまして、また、今後の長期的な課題もあったかと思いますが、それを踏まえて教育行政を進めていきたいと思っております。今後ともよろしくお願い申し上げます。進行を事務局の方にお返しします。

4 閉会
渡部局長

(閉会を宣す。)

(午前 11 時 30 分)